

また沖縄・日本が戦場になるって本当ですか？ リアルに知りたい！台湾有事「戦争」シナリオ

「どうなる沖縄～台湾有事シミュレーション」

講演会

政府の安保（軍事）3文書が敵基地攻撃力保有を決定し、日米2+2（防衛・外務閣僚）、首脳会談で台湾有事の「統合抑止」「反撃力（敵基地攻撃）で協力」が確認されました。米トマホーク爆買い、中国に届く長射程ミサイルの大量生産、南西諸島への大量配備が計画されています。日米演習も激化し、もはや「有事即応の戦時態勢」（小西誠氏）の危機的な状況です。台湾有事で米軍、自衛隊は沖縄の島々でどのような戦闘を想定しているのか。日本本土も戦場となるのか。台湾有事の「軍事シミュレーション」戦争シナリオを解説し、日本を「戦争をする国」に変えた軍事（安保）3文書を読み解きます。

日時：3月12日（日）13:00～15:30
(12:30開場)

会場：宜野湾市民会館（宜野湾市野嵩1丁目1-1）

※宜野湾市役所駐車場と道向かい奥の市民会館駐車場をご利用ください

◆講演◆石井暁／共同通信社編集局専任編集委員

『「戦争ができる国」から「戦争をする国」へ』安保3文書を読み解く



「（安倍氏が成立させた）安保関連法は台湾有事に日本が自動参戦する仕掛けだった」「岸田首相は反撃能力（敵基地攻撃能力）保有を決め、防衛費を大幅に増やす」「安倍氏が戦争を『できる国』に変え、岸田氏が戦争を『する国』に変えた」（タイムズ）

石井暁（いしい・ぎょう）1961年生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。1985年共同通信社入社。94年から防衛庁、防衛省を担当。著書に「自衛隊の闇組織—秘密情報部隊『別班』の正体」（講談社現代新書）。月刊誌『世界』に「辺野古密約—陸上自衛隊の独走と逸脱」、「台湾有事と日米共同作戦—南西諸島を再び戦禍の犠牲にするのか」等10回を寄稿。辺野古密約報道で沖縄タイムス阿部岳編集委員と「むのたけじ地域・民衆ジャーナリズム賞大賞」「メディア・アンビシャス大賞」「ジャーナリズムZ賞」を受賞。

◆講演◆小西誠／軍事ジャーナリスト

『台湾有事シミュレーション』沖縄・日本はどうなる



「沖縄全体が中国に対するミサイル攻撃基地となる」「米シンクタンク報告書は米軍、自衛隊、中国軍、台湾の甚大な被害を予測。沖縄の犠牲は一言も触れられていない」「嘉手納、三沢、横田、岩国も使用。本土も巻き込まれ、核戦争へのエスカレートも」

小西誠（こにし・まこと）1949年生まれ宮崎県出身。航空自衛隊生徒隊を卒業し任官後1969年、自衛隊の治安出動訓練などに反対し懲戒免職。自衛隊法違反で起訴されるが1981年無罪確定。軍事ジャーナリスト・「自衛官人権ホットライン」事務局長。著書に『オキナワ島嶼戦争』『要塞化する琉球弧』『ミサイル攻撃基地と化する琉球列島』など多数。

入場
無料

ノーモア沖縄戦 命どう宝の会 <http://nomore-okinawasen.org>

お問合せ：090-2716-6686（新垣）



「沖縄戦前新聞」戦争の危機、日々刻々

沖縄はもはや戦後ではなく戦前だ。日々の地元紙から「沖縄の犠牲」を前提とする戦争計画、うそとごまかし、県民の悲痛な声をお伝えする。

〈最初に狙われるのは沖縄〉

台湾海峡で米中戦争が起きれば、一番に攻撃されるのは米軍嘉手納飛行場。沖縄から平和の対話発信を（元外務省国際情報局長・孫崎享 23年2月11日 タイムス）

〈次の沖縄戦は「住民混在の国土防衛戦」〉

最先端の軍事技術が投入される島嶼「防衛」戦争は、住民を犠牲にした沖縄戦の再来を予感させる。2022年、陸自富士学校の隊内誌に掲載された記事には、島嶼防衛戦は、「敵に離島を占領させた後、強襲上陸し奪還」とある。「領域保全を優先」するため「住民混在の国土防衛戦」を行う」と書かれている。（宇宙科学者・前田佐和子氏 22年9月22日 新報）

〈台湾有事は半年～1年、長期戦〉

〈中国はピンポイントで狙い住民被害さほどでない〉

短期決戦は中国有利。（自衛隊が）半年～1年時間を稼げば米軍が駆け付け日米が有利になる。長期戦のリスクはある。台湾含め地域全体がウクライナのような破壊を受ける可能性が高い。中国は米軍や自衛隊をピンポイントで狙える。民間人の巻き添え被害はほとんどない。（防衛省シンクタンク、防衛研究所の高橋杉雄・防衛政策研究室長 23年1月3日 新報）

〈沖縄「生き残れない」特に嘉手納は生き残るものはない〉

沖縄基地は中国との戦争で生き残ることはできない。特に嘉手納は生き残れるものは何もない。（米軍準機関紙「星条旗新聞」で米政府元高官が見解。22年11月21日 新報）

〈国民は決意せよ！日本は同盟国米国、同志国と台湾を守る〉

自分の国は自分で守り抜ける防衛力を持つ。国家の力の発揮は国民の決意から始まる。我が国の能力と役割を強化し同盟国米国、同志国と我が国、周辺の現状変更（台湾有事）を抑止する。侵攻抑止の鍵は反撃（敵基地攻撃）能力。（政府安保3文書 22年12月17日タイムス）

〈ミサイル戦 逃げ場ない〉

私の父は44歳の若さで子ども4人と妻を残し、喜屋武岬で行方不明のまま。今、ミサイル戦になれば狭い沖縄逃げ場がない（那覇市、88歳 12月17日 タイムス）

〈安保大転換＝ミサイル大量配備 沖縄国会議員の声〉

沖縄が敵ミサイル標的に（伊波洋一参院）、備えあれば憂いなし（西銘恒三郎衆院）、現実的判断（宮崎政久衆院）、大軍拡路線（新垣邦男衆院）、沖縄の理解が抑止力（国場幸之助衆院）

〈避難シェルターはアリバイ 日本が火だるまに〉

講演会・シンポなどの意見

沖縄戦の地獄図を子、孫に味わわせるわけにはいかない。命どう宝だ（玉寄哲永・88歳）
避難シェルターは戦争準備のアリバイ。普天間第二小にも貧弱なシェルターが2つある。オスプレイ墜落から子どもたちを守れない。先島のシェルターも一緒（タイムス 阿部岳編集委員）
南西諸島だけでなく日本列島3千キロが米国を守る防波堤になる（国際政治学者・羽場久美子）
中国と戦争すれば沖縄だけでなく日本が火だるまに。経済も破綻する（弁護士・海渡雄一）